

人間科学部健康栄養学科設置認可

管理栄養士養成施設として指定申請中

高度な専門知識と対人実務能力を身につけた人材の育成をめざす

2008年度から、常磐短期大学の生活科学科食物栄養専攻が常磐大学の人間科学部へ移行し、新たに健康栄養学科としてスタートする。これにより、栄養士として3年以上働かなければ得られなかった管理栄養士国家試験受験資格を卒業と同時に得られるようになる。これまで常磐短期大学生活科学科食物栄養専攻は県内に多くの栄養士を輩出してきた。この長年培ったノウハウを基盤に、さらに高度な専門知識を身につけた管理栄養士を養成することが開設の目的だ。

生活習慣病が増加し高齢化社会が到来する現在、医療や福祉の現場で活躍する栄養士には幅広い知識と高い専門性が求められている。そこで常磐大学は、県内でも少ない管理栄養士養成校として、その実務にあたる多くの管理栄養士を社会に送り出す考えだ。



柔軟なカリキュラムを設置し時代の要請に応える

人間科学部健康栄養学科が目標としているのは、将来、管理栄養士として地域のリーダーとなる人材の育成だ。肥満、糖尿病、高血圧症などの生活習慣病や、食物アレルギー、拒食症などの患者が増加する現代社会では、栄養カウンセリングに基づく個人への栄養指導が求められている。そこで健康栄養学科には、対象者個人を栄養ケア・マネジメントする上で欠かせない栄養学の知識やカウンセリング能力、コミュニケーション能力が身につく科目を設けた。そしてもう一つ重要なのが、医学的アプローチ。疾病予防のエキスパートをめざして、医学的知識も身につける必要がある。そのため病気発症のメカニズムを知るための医学系科目も豊富に揃えている。健康栄養学科はこうした柔軟なカリキュラムで、時代の要請に応えていく。

■健康栄養学科 2008年度 入試日程・試験科目〈入学定員80名〉

入試制度	試験入試(A方式)	試験入試(B方式)
出願期間	2008年1月15日(火)～1月29日(火)	2008年2月12日(火)～2月25日(月)
試験日	2008年2月5日(火)	2008年3月3日(月)
試験科目	<ul style="list-style-type: none"> ●英語(英語Ⅰ・Ⅱ) ●国語(国語表現Ⅰ・国語総合(古文・漢文を除く)) ●選択科目(「数学Ⅰ」「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」から1科目) 	<ul style="list-style-type: none"> ●英語(英語Ⅰ・Ⅱ) ●選択科目(「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」から1科目)
合格発表日	2008年2月12日(火)	2008年3月10日(月)
入学手続期間	2008年2月13日(水)～2月22日(金)	2008年3月11日(火)～3月25日(火)

※詳細は募集要項をご覧ください。

人間の尊厳を大切にし 世界的視野で考え行動できる人材を育てる

—開校準備、着々と進む—

2008年4月開校の智学館中等教育学校では設置認可を受けて、11月24日、1月6日、1月20日に入学試験を実施した。また、教員対象の研修会を継続して開催し、開校準備を進めている。12月9日に開催した研修会では、慶應義塾ニューヨーク学院長を務めた小田卓爾先生（名誉校長就任予定）から一貫校の特色などを伺った。以下に抄録を掲載する。

小田名誉校長が語る一貫教育への期待 ～何はさておき平衡の感覚(Sense of Proportion)～

日本の初等・中等教育の一断面を見ると、小学校から中学校、高校、大学に進む際に「しぼり込み」が行われるピラミッド型の「しぼり込み型」の教育制度といえる(図参照)。そして、この「しぼり込み」の手段が入学試験であり、試験は出題者側主導の〇×式の正誤問題となっている。ここには、出題側の意向が反映され、受験側の個人の見解は問われない。このため、競争相手は“個人”ではなく、“他人”になり、他人との競争の中で勉学と教育の目標は「いかにして有名校に入るか」になる。この「しぼり込み型」とは対照的なタイプとして、慶應義塾などの例に見られる「抱き込み型」がある(図参照)。これは、小学校から中学校、高校、大学というように生徒を次から次に抱き込んで大学迄上げていくタイプといえる。

福澤諭吉が好んだ言葉に「自我作古」がある。これは、「常に自らを古いものにする」つまり「新しい自分を作ってゆく」ことを意味している。競争相手は“他人”ではなく“自分”であるとも言えよう。慶應義塾の教育には、こうした福澤精神が脈々と流れている。

このため慶應義塾中等部の教育目標には、生徒が将来円満な人格と豊かな人間性をもつ人になることを掲げ、学科においてもかたよらない知識を得、幅広い経験を積むことが大切であると考えている。つまり、大学を卒業して、社会の中核の人物になり得る素地を作るためには、いろいろな学問の基礎を学び、様々な体験を積み重ねることが必要で、それが自分の可能性の発見につながるとしている。

海外の例として、イギリスの教育制度をみると、義務教育は5歳から16歳までで、小・中・高と3つの学校を軸とし、基本的な制度は日本と同様とみることができ、そして、これからの一貫校の特色を考える上でイギリスのパブリックスクールが参考になる。このパブリックスクールの生活を描いた名作に「チップス先生さようなら」がある。この中に、効率主義の若い新任の校長を評して、「怒りっぽく、諧謔を解せず、平衡の感覚というものをかいておる…何をさておいても、その意味ではラテン語もギリシャ語も化学も工学も実はそれほど重要ではない。しかも、この平衡の感覚というやつは、試験問題にしたり、修了証書を与えて、それでどうこう決まりをつけるわけにはいかんじゃないか…」(新潮文庫、菊池訳参照)という一節があり、ここにこそパブリックスクールの本質がある。

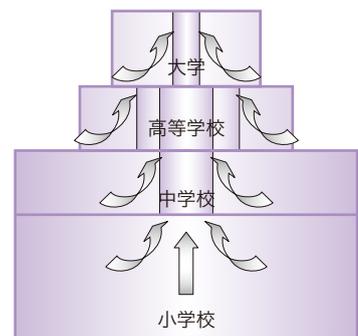
“勉強は受験につながないと意味がない”という考え方があるが、これからの教育は人格教育につながないと意味がない。公立学校と私立学校の違いは、設立者がいるか、いないかとも言える。私立学校の一貫校の教育は“伝統的パブリックスクールの人格教育の理念”と“平衡の感覚”を有して、生徒・保護者・教職員が三位一体となって設立者の理念をどう生かすかにかかってくる。



名誉校長 小田 卓爾 (就任予定)

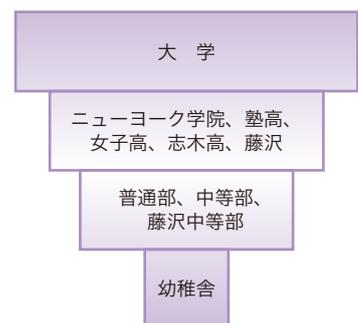
おだ・たくじ ● 帝京大学文学部教授、慶應義塾大学名誉教授。慶應義塾中等部長、慶應義塾ニューヨーク学院(高等部) 学院長を務める。イギリスの初等・中等教育に造詣が深い。

「しぼり込み型」の教育制度



(慶應義塾の場合…)

「抱き込み型」の教育制度



■ シリーズ・智学館中等教育学校 Vol.5

安心して学べる木の香りが香る校舎

2008年4月開校に向け、建設工事が進む



●建設が進む智学館の校舎。

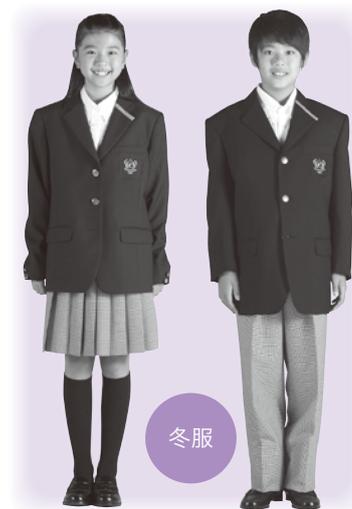
また、智学館では、実験・実習重視の理科教育を特色のひとつに掲げている。物理地学実験室・化学実験室・生物実験室・講義（実験）室のほかにも、天体観測室を設置して、発見探求型の学習を行う。天体観測室は、L型フォーク式直径30cmの天体望遠鏡を備え、太陽・月・惑星をはじめ、様々な天体観測が可能である。太陽の変調や惑星の運行など、単発的な観測にとどまらず、継続的な観測を行うことにより、発見する喜び、驚き、感動を共有しながら、科学的、論理的思考、ひいてはサイエンスマインドを養う。

水戸市小吹町内に、智学館中等教育学校の校舎を建設中だ。生徒たちが1日のうちの半分近くを過ごす学校だからこそ、木造の校舎、さらに上下の移動が少ない2階建てにこだわり、コンクリートとは違うぬくもりのある優しい校舎である。

校舎は、大小5つの中庭（光庭）を囲むように配置されている。これらの中庭は生徒たちにとって“学び語り合う生活の場”として教室以外にも生徒たちの居場所を提供する。校舎のほぼ中央に位置する「陽のあたる広場」は、一辺30mのスクウェアな広場で、学校生活のいろいろな活動にも利用できる。



個性やセンスに自信をもてる、基準服が正式決定



冬服

。シャツは、冬服同様のボタンダウンシャツを着用する。オプションのベストは、オフホワイトとグレーのものが用意されている。

【体操服・体育館シューズ】体操服はネイビーの地に年次カラーを配色した。初年度は明るく快活なイメージのイエローを選定。全体のバランスを第一に考え、体育館シューズも年次カラーのライン入りである。安全で動きやすく、落ち着きと品格の感じられるスポーツウェアだ。

※写真は基準服をモデルが着用したときのイメージ。

【基準服】 智学館の基準服の特徴は、定められた形の服を着用しながらも、各自の好みと個性に合わせてカラーコーディネートが楽しめるように工夫されている点にある。それは、自分の個性やセンスに自信を持ち、さらに磨きをかけて社会に巣立っていくことが、これからたくましく未来を切り拓いていく生徒として何よりも大切だと考えたからである。

【冬服】 冬服のジャケットは、胸に智学館のCをかたどった刺繍、襟に千鳥格子のラインを配した、清潔感のある落ち着いた雰囲気のある三つボタンのシングルブレザーで、女子用にエンジとグリーンを、男子用にブラックとグリーンの2種類を用意している。スカートとスラックスは、日本の伝統的な千鳥格子を用いている。また、ジャケットの下に着用するシャツは、ボタンダウンシャツを基本とし、推奨するオフホワイト、イエロー、ピンクを用意し、ジャケットに合わせて、自由に自主的にコーディネートできる。

【夏服】 夏服のスカートとスラックスは、淡いベージュの素材で、カジュアルで若々しくアクティブな印象となっている。



夏服

体操服



智学館の英語教育

～一貫した英語教育の枠組みの提唱～

田中 茂範氏 (学校法人常磐大学 参与)

TokIwa Interview ⑥

智学館中等教育学校が大切にしている3つのマインドのうちの一つ、「グローバルマインド—国際性豊かな知性と感性」を育てるために、智学館では6年一貫教育のもと英語教育に力を入れる。一貫した英語教育とはどんなものなのか、智学館の英語教育の内容についてご指導いただいている慶應義塾大学教授の田中茂範先生にお話を伺った。

英語教育の際、異文化理解という視点がありました。従来は「外国語としての英語」であったため、例えば日本文化とアメリカ文化、日本文化とタイ文化、日本文化とケニア文化などと捉えていた面がありました。しかし、「国際語としての英語」を学ぶときには、世界中のさまざまな人々が英語を介したやりとりを行うようになるため、「異文化」という見方、考え方ではなく「多文化を生きる」という視点になります。この「多文化」とは、多様性のことを意味し、文化的個性を備えた他者を指します。他者とは違いをもたらす存在であり、この違いとどう向き合っていくかが重要になります。そして、「多文化を生きる」ためには「たくましさ」と「しなやかさ」が必要です。ここでいう「たくましさ」とは、自分で考え判断し、行動する自立性であり、主体性のある自己表現を行うということです。また、「しなやかさ」とは他者との関わりにおいて自らの意味世界を再編する力、対話力です。

そして、智学館の標榜しているグローバルマインドを備えた人とは、換言すれば、たくましさとしなやかさの態度をもち、それを実践する能力を備えた人と言えます。日本の英語教育には小学校から大学までを貫く健全なカリキュラム・フレームワークがありません。そこで、英語教育のグランド・デザインを描くことが急務となってきます。ここで必要なのは、発達の観点を取り入れた「英語カリキュラム・フレームワーク(English Curriculum Framework ; ECF)です。この構築にあたって、テスト教材、

教授法などに活用できるよう、発達段階別に、何をどう教え、結果をどのように評価するかという明確な指針を示す必要があります。そして、この指針となるのが「英語コミュニケーション能力」です。

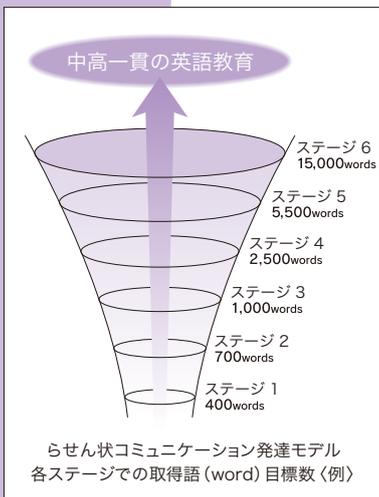
中学生には中学生に、高校生には高校生に必要なコミュニケーション能力があります。アパートを借りる際の家賃交渉のような場面の英語のやりとりを中学生に求めることには疑問があり、無理があります。ファーストフード店で自分が欲しいものを的確に注文できるような対話能力、「サイズはLで、中身はエビ、ベーコン、トマトを入れてください。3ケお願いします」というような会話から始まります。

ECFにおいて、英語コミュニケーション能力は、「タスク処理」と「言語リソース」の相互運動と捉えることができます。「タスク処理」とは、どんなタスクをどういった言語を使って、どれだけ機能的にこなすことができるかということです。そして、あるタスクを言語的に処理するために必要となる言語知識が「言語リソース」です。言語リソースは、語彙、機能表現、文法の3つからなり、それぞれは相互に関連します。

ECFでは発達段階を「らせん状のコミュニケーション発達」として捉えています。このモデルでは、英語コミュニケーション能力を質と量の両面から規定しています。中学生には中学生の必要とされるコミュニケーション能力があり、関係性の中で生きています。その後、段々成長し、発達段階が進むとそれに応じて関わる世界や関わり方も自然と変化しますが、そのプロセスはその後一生進みます。このように、ECF理論に基づき、タスク処理と言語リソースとの相互運動と捉えた英語コミュニケーション能力を智学館で育むことが期待されます。

Profile

たなか・しげのり ● 慶應義塾大学環境情報学部教授。応用言語学的な視点から、意味論、英語教育論などを展開中。NHK『新感覚☆キーワードで英会話』の講師。主な著書に『コトバの意味づけ論』、『Eゲイト英和辞典』、『幼児から成人まで一貫した英語教育のための枠組み』など。



エクステンションセンター・オープンカレッジ

オープンカレッジで新学科をアピール

健康栄養学科と経営学科の開設に先駆け、エクステンションセンターは常磐大学内でオープンカレッジを開催した。健康栄養学科関連の講座は10月20日に実施。「自ら行う健康管理、そして生体防御機構とは」をテーマに、人間科学部の内山竹彦教授と茨城県栄養士会の高橋征子会長が、それぞれ専門の立場から講義を行った。続いて、11月10日には、経営学科関連講座を実施した。国際学部の村山元理准教授と国際学部の石塚光政講師が「現代社会と経営—企業倫理の重要性と上杉鷹山に学ぶ経営学—」をテーマに講義を展開した。栄養学、経営学の面白さを伝えるこのオープンカレッジは、新学科開設に向けた大きなアピールとなった。



心理臨床センター公開講演会

「芸術療法とカウンセリング」心の“そよぎ”と“感じ合い”を体験

常磐大学心理臨床センターが主催する公開講演会が、10月10日、常磐大学R棟において開催され、多数の市民が芸術療法を体験し、熱心に耳を傾けた。講演は「芸術療法とカウンセリング」と題して、日本医科大学准教授である杉浦京子氏が行った。

杉浦先生は長く学生相談に従事するかたわら、芸術療法への関心が高く、「コラージュ療法」などの研究および実践を行っている。コラージュとは、元来、“貼り付ける”という意味のフランス語。講演では芸術療法の案内をしながら、参加者が、簡易形のコラージュを体験して、雑誌、新聞、広告などから自分の気に入った絵、写真、文字などを切り取って、自由に紙に貼り付け、作品を制作した。作業後には参加者同士による相互批評も行った。

芸術療法でのエピソードを交えての講演に、参加者は、その場で経験する心の「そよぎ」と「感じ合い」によって芸術療法の中に自分を表現する楽しさを体験した。



桜川市と連携協力協定を締結

常磐大学と桜川市、連携協力に関する協定を締結

常磐大学は、桜川市と相互の連携と協力により、地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的として協定を締結、12月10日、桜川市役所で調印式を行った。

すでに、塚原正彦准教授(コミュニティ振興学部)が「桜川市産業振興ビジョン」策定に協力し、また、桜川市の「デジタルコンテンツ制作プロジェクトチーム」のチームリーダーとして参加、常磐大学の学生もこのプロジェクトに関わって連携を図っていた経緯もあり、常磐大学と桜川市は今後、さらに地域の特性を生かした活性化策、人材の育成や政策課題の解決に向けた協同研究など、全分野における連携協力を図るため協定を締結するに至った。これまでに同様の協定を水戸市、笠間市と結んでおり、今後も地域自治体との連携拡大を予定している。



(連携の内容)

1. 知的資源、人的資源および物的資源の相互の活用に関すること
2. 地域の政策課題に関すること
3. 地域活性化に寄与する人材の育成に関すること
4. 共同で実施する事業の企画および推進に関すること
5. その他、必要と認めること

協定締結後、地域情報コンテンツの制作事例として、塚原准教授のゼミ学生により、桜川市をテーマとしたホームページ「まかべのすきま」(<http://itwill.jp/~tdigimu/>)の概要説明やプレゼンテーションが行われた。これは、手書きの地図や写真を織り交ぜて、物語形式で真壁地区を紹介した点に特徴があり、このデジタルコンテンツの完成度に市長や関係者から大きな拍手が送られた。

第2回TOKIWA高校生英語スピーチコンテスト

高校生が英語で日本の魅力を紹介！

10月20日『第2回TOKIWA高校生英語スピーチコンテスト』が、情報メディアセンター・センターホールで開催された。毎年、高校生が国際的に視野を広げ英語能力を向上させる機会として企画されている。当日は、茨城県及び隣接県の高校生たち16名が、日頃の英語学習の成果を発揮した。

今回のテーマは『海外の人に伝えたい日本の魅力』。それぞれユニークな副題を掲げ、個性あふれる主張を展開した。

審査は英語力 (English) ・表現力 (Delivery) ・内容 (Contents) の3項目。5人の審査委員が各項目に点数を付け、参加者たちはその総合得点で順位を競った。最優秀となる「常磐大賞」の栄冠



●常磐大学賞を受賞した水戸三高1年の栗野花奈子さん。

を手にしたのは、茨城県立水戸第三高等学校1年の栗野花奈子さん。『日本の漫画』についてスピーチした。「私は漫画からさまざまなことを教えられたので、それを皆に伝えたいと思いました。将来は、海外で会話に困らないくらいの英語力を身に付けたいですね」と、受賞の喜びとともに、瞳を輝かせていた。



●スピーチコンテストの後に行われた、国際交流親睦パーティー。

「総合的被害者支援システムの開発」コースが開講

途上国の政策担当者が具体的な被害者支援策を構築

常磐大学国際被害者学研究所は、国際協力機構 (JICA) の委託を受け、「総合的被害者支援システムの開発」コースを10月22日から11月22日の1カ月間、国際被害者学研究所及びJICA筑波において開講した。この集中講座には、犯罪、自然災害、紛争など多岐にわたる被害への支援策を進めるため、アジア、アフリカ、中近東、中南米など10カ国から、省庁の担当者、警察署長、児童保護センター長など被害者支援に関わる政府、自治体の関係者らが研修員として参加した。

1カ月にわたる講座では、被害者学の基礎理論から自然災害、児童虐待、紛争といった様々な被害の実態に加え、支援の構築やプロジェクト管理の手法を学んだ。また、関西視察旅行では、公的機関や民間の被害者支援センターを訪問し、阪神大震災後特に注目された精神的ケアや被害者支援における官民連携の大切さなどを実地研修した。この講座の締め括りには、研修員それぞれが作り上げた被害者支援策 (アクション・プラン) を発表し、「研修の成果を一刻も早く被害者救済という形で役立てたい」と熱く語っていた。



●JICA筑波で11月22日に行われた閉講式。



●閉講式で修了証書を手にするネパール平和・復興省次官のシャリグラム・シャルマ氏。

学生支援センター

キャリア支援担当から

●内定率上昇へ!! (2007年度就職状況について)

常磐大学・常磐短期大学における2007年度学生の就職内定状況は学部・学科により多少ばらつきがあるものの、前年同期を上回っている。内定企業は右記の通り、日本郵政グループやJR関連先、金融機関等を始めとして幅広い業種にわたっている。

●2008年度支援プログラム —大学3年生、短大1年生対象—

6月の就職ガイダンスを皮切りに就職セミナー、就職サイトの使い方講座を実施。11月以降は業界研究、エントリーシート の書き方、リクルートスーツの着方、就職支援バスツアー、内定者報告会、模擬面接等を開催した。これらのプログラムは内定者からも実践に役立つと非常に好評なため、今後も学内会社説明会、マナー講座等、盛り沢山の内定に直結するプログラムを予定している。

キャリア支援担当では、キャリア・就職支援情報を携帯電話にメール配信するサービスを実施している。1・2年生も積極的に登録してほしい。また、今年度からスタートしたキャリアデザイン講座は、学生の皆さんにより興味を持てる、さらに充実した内容で来年度も開設する予定である。就職に関する情報、相談等なんでも気軽に学生支援センターを活用してほしい。詳しくは、<http://www.tokiwa.ac.jp/~career/index.html>まで。

主な就職内定先

[常磐大学] 日本郵政グループ、株式会社常陽銀行、株式会社関東つくば銀行、株式会社茨城銀行、茨城県信用組合、東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)、茨城県警察本部、株式会社ココスジャパン、日産プリンス茨城販売株式会社、茨城日産自動車株式会社、関彰商事株式会社、株式会社ヤマダ電機、株式会社カスミ

[常磐短期大学] 日本郵政グループ、地方公務員 (市町村保育園)、株式会社常陽銀行、茨城県信用組合、株式会社JR東日本リテールネット、NOK株式会社、株式会社オンワード樺山仙台支店、日清医療食品株式会社関東支店、キャノン株式会社取手事業所、東京電力株式会社、株式会社羽田エアポートエンタープライズ、株式会社日本レストランエンタープライズ、東京海上日動火災保険株式会社

産・学連携レポート

●インターンシップ体験事例を発表

11月26日、ホテルレイクビュー水戸で開催された第2回いばらきインターンシップ推進協議会で、国際学部英米語学科3年の秋山久美子さんが体験事例発表を行った。秋山さんは『インターンシップ参加により見えた社会』をテーマに、インターンシップで学んだ責任感の重要性やコミュニケーションの大切さなどを報告。常磐大学・常磐短期大学では、就職活動に対する疑問や迷いの解消にもつながるインターンシップを、これからは積極的に展開する考えだ。



●第11回常磐フォーラム開催



『第11回常磐フォーラム』が10月10日に水戸京成ホテルで開催された。

講演を行ったのは、青山学院大学経営学部客員教授の中田研一郎氏。中田氏は若者の早期離職や管理職の保守化について話し、参加者は熱心に耳を傾けていた。

続いて行われたのは、国際学部・北根精美ゼミナールと人間科学部・文堂弘之ゼミナールのプレゼンテーション。企業とのコラボレーションをテーマに行われた両ゼミの発表に、会場からは大きな拍手が送られた。

常磐大学高校初のプロ野球選手誕生！ 高校生ドラフトで菊池保則投手、楽天と契約

●ドラフト4巡目指名

プロ野球の高校生ドラフトで楽天に4巡目で指名された菊池保則投手が12月9日、仙台市内のホテルで楽天と本契約、入団発表をした。背番号は59。菊池投手は、「まずは体を鍛えて、一軍に上られるように頑張ります」と抱負を語り、「川上投手(中日)のように信頼されるピッチャーになりたい。対戦したい選手は松中選手(福岡ソフトバンク)。チームの勝利に貢献できるよう頑張ります」と話した。



新入団選手発表会でガッツポーズを見せる菊池保則投手(後列右)。



卒業生センター便り

●常磐大学1991年度卒業生 ホームカミングデー開催報告

10月20日14時から、常磐大学見和キャンパスにおいて、卒業後15年を迎えた常磐大学1991年度(人間科学部6期)卒業生を対象としたホームカミングデーを開催いたしました。卒業生46名、旧・現教員6名の計52名がご参加くださいました。



開会の言葉に続き、高木学長からの挨拶では、大学の現状、今後の展望についてお話をいただきました。続いて、森山哲美先生の講演が行われ、行動の科学としての心理学についてご講演いただきました。参加者は学生時代に戻ったように、真剣に講演を聴いていました。講演後、施設見学をしながら懇親会会場へと移動しました。学生時代と様変わりしたキャンパスに皆さん驚き、そして懐かしんでいました。

懇親会は、常木先生より乾杯の挨拶をいただき、スタートしました。当時のVTR、先生や参加者からの近況報告を交えながら、卒業生・教員とも再会を喜び、親交を深めていました。「講演では、学生の頃とは違った視点で聴くことができ、納得することも多く、心に残った」、「久しぶりに学校に来ることが出来、みんなに会えて良かった」、「もっとたくさんの卒業生が集まるとさらに楽しかったのに」などといった感想をいただきました。とてもアットホームな雰囲気、終始笑い声が絶えない中、盛会のうちに閉会しました。



でも社会人として成長した姿を見ることができ、とても嬉しく思います。今日は楽しく過ごしましょう」と挨拶をいただき、スタートしました。庭に出てピザを焼いたり、ミネストローネを作ったりと、皆さん楽しく調理をしながら、学生時代の思い出や社会人としての悩みなどを話したりと親交を深めていました。「とても楽しかった。またこうやってみんなと会えると嬉しい」、「学生時代とは違い、自由なスタイルで話が出来て楽しかった」といった感想をいただきました。終始アットホームな雰囲気の中、盛会のうちに閉会しました。

◎問い合わせ先

〒310-0036 茨城県水戸市新荘1-7-26
学校法人常磐大学 卒業生センター
TEL&FAX/ 029-231-8162
事務取扱時間/平日9:00~17:00



寄付者芳名

寄付者氏名	金額	内容、指定用途等
(匿名を希望された方)	50,000円	学校法人常磐大学に対する教育支援

●常磐短期大学生活科学科生活科学専攻 ホームカミングデー開催報告

10月20日10時30分から、常磐大学同窓会館において、2006年度(2007年3月)に卒業した方々を対象としたホームカミングデーを開催しました。卒業生20名、教職員6名の計26名がご参加くださいました。

伊藤先生からの「皆さんお帰りなさい。変わっていないような、

編集後記

いよいよ、2008年がスタートしました。今年が学校法人常磐大学にとって、飛躍の年になります。それは、本誌でもシリーズでお伝えしている智学館中等教育学校の開校です。着々と校舎も完成に向かい、開設準備室も最終調整に追われています。智学館は、一人一人の生徒の尊厳と能力を大切にすることを目指します。どうぞご期待ください。

